

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270201054		
法人名	㈱マウントバード		
事業所名	グループホーム ちぐさの家		
所在地	千葉県花見川区千種町 150-1		
自己評価作成日	平成24年2月5日	評価結果市町村受理日	平成24年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・会社の理念である「自立と愛」を実現できるように心がけている。入居者を主体にして、自分の有する能力に応じて自立した生活ができるように支援している。 ・ご自分のペースで穏やかに過ごせるように支援している。明るく家庭的な雰囲気生活しているのゆとり時間がホームに流れている。 ・夜間でも可能な限り入浴をしたり、ご自分で外出出来る方は自力で自由に外出している。出来る限り個人の自由を尊重した支援に心掛けている。 ・まだまだ工夫と改善の余地があるが、スタッフが協力して改善する風土を作り上げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中で普通の生活を送ることを前提に、入居者一人ひとりの能力を活かした介護支援を心がけており、症状の安定や改善につなげている。家族と連携しながら、趣味の講座に参加したり個別に出かけるなど、入居者のしたいこと、出来ることの支援に取り組んでおり、利用者本位のサービスに努めている。年2回のバス旅行も入居者の希望にそって浅草、房総半島、柴又など行き先を決め、家族と一緒に楽しんでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念(「自立と愛」)、ホームの理念をフロア会議などで説明し皆が納得できている。理念を具体的に実践に活かすとともに、今後はホームにおける新人教育の教育プログラムに組み込みたい。	ケアの理念「自立と愛」とホームの理念「私たちはハード「心」を大切にしたい支援に努めます」を実践すべく、ユニット毎に目標を定めて取り組んでいる。1ヶ月ごとに見直すことにより、サービスの質の向上につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校との交流会、運営推進会議には町内会長・小学校の教頭先生・民生委員の方などが出席いただき、交流している。しかし自治会主催の行事への参加が今年度は不十分であったため、来年度はもっと積極的に参加したい。	隣の小学校との交流があり、和太鼓演奏や総合学習で来訪があったり、入居者が運動会を参観している。同法人の他のグループホームと合同でバーベキュー大会やもちつき大会を開催し入居者同士が交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症について説明などを行っているが、地域への関わりとしてはまだ不十分。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者・ご家族・町内会長・民生委員・自治会長・小学校の教頭先生・あんしんケアセンター職員などが参加し、二か月に一度の割合で実施してきた。	定期的開催し、ホームの近況報告を中心に意見交換をしている。防災対策や地域との連携、バス旅行などが議題としてあがっている。	すでに多彩なメンバーの参加を得ているが、さらに参加者の幅を広げ、ホームの存在を知ってもらうとともに、意見を活かしサービスの向上につなげることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にはあんしんケアセンターの職員の参加、また千葉市高齢施設課の職員とは各種手続き・研修参加をめぐり話しをしている。花見川区の社会援護課の職員とは生活保護の方の対応について何回も相談してきた。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席している。また、介護相談員を受け入れており、毎月の来訪により意見を聞く機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関・ベランダ側の窓の施錠をしないような工夫と取り組みを実施している。施錠をしないで行動の自由を確保できるようなケアの工夫をしている。	研修会等により職員に徹底を図っており、身体拘束をしないケアを実践している。夜間以外は施錠せず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束については全職員に対して研修・指導している。具体的にもどのような場合が拘束にあたるのかを具体的に指示・指導している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他の法人の現状・虐待についての具体的な事例などを示し、何が虐待にあたるのかを具体的に示し、共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にできるだけ項目ごとに説明し、同意を得ている。また過程においてもその時々相談を受け、疑問点・不安などについては説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは来所時に現状を伝えるとともに、意見・要望を聞くようにしている。今年度は実施できなかったが、今後はアンケートを実施し、それに基づいて家族会を計画している。	入居者については日常生活の中で、家族については来訪時に意見要望聴取に努めている。運営に関する内容についても意見が出ており、可能な限り対応することに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段に話し合いの機会をもち、会議においても管理者の一方的な意見の押し付けにならないように配慮している。	週1回開催されるフロア会議には管理者が出席し、ホーム内の案件について検討し反映している。ホームでの決定が難しい場合は、さらに上のホーム長会議で検討する場合もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人が目標をもって働くことができるように管理者は心掛けている。給与については他の職種と比べると低いのは私たちの力ではどうにもならないが、やりがいのある仕事になるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では継続的な研修を実施している。ホーム内でも適宜研修・勉強会を開いている。外部の研修への参加も積極的に奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が千葉市のグループホーム連絡会役員を兼ねている為、積極的に情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居相談(面接)時、または、ご入居時にご本人の主訴を十分に聞き、ケアプランに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居相談(面接)時に気軽に相談できる雰囲気作りに努め、信頼関係を作る事ができるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を見極め、その時の状況に応じてどのような支援が必要かを話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・清掃・洗濯など、入居者と一緒に行い、共同の生活者としての信頼関係を築くことができるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出外食や病院受診など、ご家族に協力していただけることはお願いし、ご本人の生活を一緒に支えている。また年二回のバス旅行にご家族も参加いただき、家族の絆を大切にしたい取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のご家族はもちろんのこと、友人なども気軽に面会できるように努めている。	家族や友人が気軽に来訪できる雰囲気作りを心がけている。家族と相談して、これまでの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を考え、リビングの座る位置を決めている。またその時その時に入居者同士が団欒できるように、スタッフが間に入って関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されるご入居者やご家族に対しても、相談を受け入れ、他の福祉施設の紹介なども行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とはその都度その都度話しあい、ご要望などを十分に聞くように配慮している。	普通の家族のような会話ができる環境づくりを意識し、会話の中から思いを引き出している。困難な人については、表情などから思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族に生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取っている。また担当のケアマネやスタッフに聞き取り調査などを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は必ず管理日誌、介護記録、申し送りノートなどを読み、入居者全員の現状を把握するように努めている。また月一度のフロア会議で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のフロア会議のなかで、職員全体で話し合い、それをケアプランに反映させている。またその結果をモニタリングし、次のケアプランに活かしている。	入居者や家族の意向を踏まえ、入居者ごとの担当職員の意見をもとにフロアミーティングで話し合って介護計画を作成している。個人の介護記録に特記事項を記載することで、ケアプランの見直しに役立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの見直しに活かせるように介護記録などを個別に記入している。またちょっとした気づきを書きとどめておけるように、申し送りノートには誰でも記入できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者のニーズは刻一刻と変化するので、それを的確に把握し、その時その時に合わせたケアができるように、管理日誌や申し送りノートを充実させるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム全体としては「いきいきプラザ」などを利用する方がいる。一階の入居者に限ると近くの公園・コンビニ・ドラッグストアなどで散歩・買い物などで利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を大切に、以前からのかかりつけ医や提携病院での受診、二週間毎の訪問診療も行っている。	ほとんどの入居者がホームの協力医にかかっている。月2回の往診に加え、ホームの看護師が日々の健康管理を行っている。入退院の時も直接病院に出向き、情報の共有、確認を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の体調の変化は、特に注意を払い、異常があれば24時間体制で看護師に連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院との連絡は病状を確認するために密にしている。提携病院以外の病院でも直接伺って、情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前の早い段階から、ターミナル期の過ごし方の意思の確認をし、希望をご本人、ご家族と話し合い、主治医と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた対応と理念の指針を重要事項に記載し、契約時に家族に説明している。段階ごとに医師、ホーム、家族で連絡を取りながら対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による勉強会を実施し、応急手当などの訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一回避難訓練を行い、夜間を想定した訓練も行った。地元消防団に運営推進会議へ参加してもらおう等、協力関係を築いている。	避難訓練は初動・初期消火、夜間想定とテーマを決めて取り組んでいる。その中で出た問題点は次回の訓練で取り組むことにしている。訓練に参加できなかった職員には書面にて確認してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を大切にした対応を心掛けている。例えば失禁した時も、ご本人の耳元で話しかけたり、トイレに行きましょうとだけ伝えて、さりげなくトイレ誘導するように心がけている。	職員は入居者の人格を尊重した対応をしている。入室の際には必ず声をかけ、各居室にのれんを下げるなど、入居者にも居室がプライベートな空間であるという意識を持ってもらえるよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の体調や気分の変動に対応して、朝の起床時間をずらしたり、昼食後もベッドに横になってもらう等の対応をしている。画一的なケアから脱却できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者のペースに合わせた支援を心懸けている。概ね達成できているが、時としては職員の都合が優先してしまう場合もあり、今後の改善課題である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えの時や、入浴時などは出来る限りご本人の意向を確認しながら着替えを用意している。また外出時は事前にご本人と一緒に用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者のそれぞれの能力に応じ、食事の準備や盛り付け、食器洗いなどを一緒にやっている。	普段は献立と食材は決められたものが配達されるが、定期的に「リクエスト食」の日を設け、焼きそばやおでんなど、買い出しから参加してもらっている。調理のアドバイスをもらったり、盛り付け、洗い物など職員と一緒にを行うようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の栄養士がバランスの良い献立を作ってくれる。食事や水分の摂取量は日々記録しチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促し、ご入居者の能力に応じて口腔ケアを支援している。また訪問歯科とも連携し、口腔状態の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声かけにてトイレ誘導し、トイレでの排泄をうながしている。状況によってはポータブルトイレも使用している。	ホームではトイレでの排泄が基本であるという考えのもと、排泄チェック表を活用し声かけを行っている。以前おむつだった人が段階をへて、普通の下着を着用するようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操やお散歩で身体を動かして、頂いたり十分な水分摂取を促している。また、乳製品やアイスクリームを食べて頂き、自然排便を促している。排泄チェック表に基づき、薬剤投与も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者の希望を事前に確認し、状況に応じてできる限り対応できるように支援している。希望があれば毎日でも入浴できるように対応している。	入浴時間帯はほぼ決まっているが、希望があれば職員の手がある限り対応している。入浴日は決めておらず毎日でも入浴できる。拒む人には、時間をかけて声かけをしたり、お風呂券を作って入浴に誘うなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調に気をつけ希望に応じて休んで頂くように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者の服用している薬の名前や効能を閲覧できるようにしており、症状によっては主治医、看護師、薬剤師と相談の上、変更する等対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や趣味を聞き入れ、居室内にラジカセを置く等、楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力も含め、できる限り買い物や外食、散歩を実施している。月一回、外出デイを企画したり、年二回はご家族にも参加して頂いてバス旅行を実施している	近隣への散歩は日常的に行っている。また、フロアごとに外出、外食をしている。年2回のバス旅行は、家族と協力しながら浅草、房総半島、柴又など入居者が希望する場所に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができるご入居者には直接お金を渡して買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、自由に使用して頂いている。手紙も希望があれば、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日掃除をして清潔を保ち、居心地のいい空間になるように心懸けている。また、リビングや廊下にはカレンダーやイベント毎の飾り物をご入居者と一緒に作っている。	リビングの一角の畳スペースは入居者が自由に使い、寛げる場所になっている。かもいに洗濯物が干してあるなど、普通の家庭の様である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置くことで、気の合う仲間と会話を楽しんだり、一緒にテレビや新聞広告を観たりする場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のご家族はもちろんのこと、友人なども気軽に面会できるように努めている。使い慣れた家具をお持ち頂き、ご自宅と同じように過ごして頂けるようにしている。	自宅から仏壇などを持ち込み、入居以前と同じような環境を維持できるように支援している。震災後には家具の配置、転倒防止について再考し、安全に安心して過ごしてもらえるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置により、安全を確保しつつ、自立した生活が送れるように工夫している。		